

会 議 録

会 議 の 名 称	平成 3 0 年 度 第 1 回 行 田 市 女 性 活 躍 推 進 ネットワーク 会 議	
開 催 日 時	平成 3 0 年 7 月 2 4 日 (火) 開会：午後 1 時 3 0 分・閉会：午後 3 時	
開 催 場 所	行 田 市 男 女 共 同 参 画 推 進 センター 学 習 室	
出席者（委員） 氏 名	山崎孝子委員（座長）、岡田恵美委員、吉田知弘委員、吉澤篤人委員（代理人出席）根岸桃子委員、西田信子委員、黒山美智子委員、竹井里美委員、中村洋子委員、茂木美智代委員、山田理絵委員、本田尚美委員、伊藤賀章委員、小山惣子委員、春田昇委員（名簿順、敬称略）	
欠席者（委員） 氏 名	新井弘美委員、久保正子委員、坂詰恭子委員、宮本伸子委員、田代美江子委員、小針陽子委員、内沼真由美委員	
事 務 局	堀口修司（所長）、蓮沼佳代（主任）	
会 議 内 容	(1) 行田市女性活躍推進事業行動計画（案）について (2) 平成 3 0 年度女性活躍推進事業計画（案）について (3) その他	
会 議 資 料	・ 会議次第 ・ 行田市女性活躍推進ネットワーク会議設置要綱 ・ 委員名簿 ・ 資料 1 行田市女性活躍推進事業行動計画（案） ・ 資料 2 女性活躍推進ネットワークイメージ図 ・ 資料 3 平成 3 0 年度女性活躍推進事業計画（案） ・ 男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針 ・ 「テレワーク・デイズ」チラシ ・ 新聞記事	
そ の 他 必 要 事 項	傍聴者なし	
会 議 録 の 定	確 定 年 月 日	主 宰 者 記 名 押 印
	平成 3 0 年 月 日	㊟

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司会	・ 開会。 - 委員の自己紹介。 - 配布資料の確認。 ・ 本日の会議は、個人情報を取り扱う予定がないことから、原則公開とさせていただく。また、会議録については、委員名を明記の上、市政情報コーナー及び市ホームページにおいて公開させていただく。 - 本日の傍聴希望者はいない。 ・ 座長の選出（山崎孝子委員）。 - 議長の選出（座長）。
座長	・ それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただく。議事が円滑に進むよう、皆様の御協力をお願いする。議事の前に、第4条第5項に基づき、座長に事故があるとき又は座長が欠けたときの職務代理者の指名をさせていただく。 - 茂木委員を指名させていただく。 - それでは、女性活躍推進ネットワーク会議の議事の（1）行田市女性活躍事業行動計画（案）について事務局に説明を求める。
事務局	・ 資料に基づき説明。
座長	・ 事務局から説明があったが、意見や質問等あるか。 - M字カーブの問題だが、今は女性の修行率が200万人増え、子育て次世代の女性の就業率が5%上昇したという数値が出ている。解消に向かっているのは良いことだと思う。 - 意見や質問が無いようであれば、議事（2）平成30年度女性活躍推進事業計画（案）について事務局に説明を求める。
事務局	資料に基づき説明。

中村委員	・ 昨年までの内容と比較すると、とても身近で具体的になり、参加しやすくなったと思う。大変良いことだと感じた。 私は行田市女性部だが、昨年度から女性の視点の防災をテーマに掲げて活動している。災害時の女性が一番心配するのがトイレで、今年度はトイレについて検討しようということになった。まだ具体的に決まっていないが、このようなテーマであれば同じ内容でも構わないと思う。逆にいろいろな方面で同じことをやって浸透していけば良いと思う。 定員５００名というのは随分多いと思うがどうなのか。
事務局	・ 防災安全課が毎年１月に自主防災組織リーダー養成講習会を行っているが、定員５００名で開催している。今年度は当センターと共催を予定しており、企業など各種団体にも周知して多くの方に参加していただきたいと考え、例年通り定員５００名とした。 防災安全課は自治会などの役職のある方に周知しているが、今年度は自治会の中でも若い方や主婦に参加して欲しいと思っている。 行田市から都内に行った方たちは帰宅困難者対策条例で戻れないため、残っている方たちだけで少なくとも３日間は乗り切らないとならない。炊き出しは女性というイメージが強いが、大人数の炊き出しは力仕事のため男性の協力が必要である。男女共同参画の視点で多くの方に避難所生活を考えていただくために、定員を５００名とした。
座長	先日の洪水の災害が行田で起きたらどうなるのかと不安に思う。 この暑さの中での断水は、わが身に置き換えると想像も出来ない。 いつ何が起きても対処できる取り組みを、自分自身や家族、そして会社等でしっかりまとめて、防災意識を高められたら良いと思う。 委員の方々は団体として、それぞれの意見があると思うがいかが

	か。コルコートには社員が多くいるが、どのような防災意識をお持ちか。
吉田委員	・マニュアルを作り、緊急時にはマニュアルに従った行動が出来るよう取り組んでいる。マニュアルが無いと、いざという時に何から手をつけて良いのかパニックになり、優先順位が入れ替わると大変なことになると思う。
座長	・コルコートは川の側に所在するが、水の災害を意識する立地だと思う。やはりマニュアルを作って地震や災害に備えていると思う。各社員への周知はどのようにしているのか。
吉田委員	・各部署の部門長が各従業員に周知し、避難訓練を含めた教育を行っている。
座長	・備えあれば憂いなしということで安心した。他に意見等あるか。
茂木委員	・避難所にユニバーサルデザインのトイレを開設するとあるが、ユニバーサルデザインのトイレとはどのようなものなのか。
事務局	・ユニバーサルデザインのトイレとは老若男女を問わず、いろいろな方に対応した、全員が使えるトイレのことである。
岡田委員	・ここで言うユニバーサルデザインとは、特に障がい者の方に配慮したトイレのことだと思う。手すりが付いていたり車椅子のまま入れたり、誰でも使えるようにしてある。
茂木委員	・了解した。何回か防災セミナーに参加したが、参加者が意外と少なかった。とても重要な防災なので、人数が多いほうが良いと思っていた。今回 500 名にしたのは非常に良いと思っている。

座長	・他に質問等あるか。総務部人事課の伊藤委員はいかがか。
伊藤委員	・この自主防災セミナーは、災害時のトイレ問題と対策だけということなのか。また、防災安全課と共催なのか。
事務局	・防災安全課と共催である。 災害時のトイレ問題は解決が急がれる重要なテーマであり、且つ市民の方々が興味を持つ身近な問題である。講師に NPO 法人日本トイレ研究所を考えている。
伊藤委員	・トイレも確かに大事だと思うが、炊き出しなどは男性も女性も一緒に行く必要があるという。そのようなことも講演会に合わせて取り入れたほうが良いのではないか。
事務局	・来年度以降も防災について取り組んでいく予定である。自治会を対象とした 3 回の連続講座などを考えている。例えば、1 回目は防災についての知識の習得、2 回目は実際に体育館をパーティションで区切って配置等を確認し、どの自治会も同じような避難所生活が出来るよう避難所体験してもらおう。3 回目は各地区にどのような方がいるか、若い方が働きに出て戻って来れない場合は、どのような役割分担が必要か認識するために、各地域の自主防災組織図を考えてみるといった内容である。
伊藤委員	・了解した。
座長	・長いスタンスで、いつ災害が起こっても大丈夫というような備えは必要だと思う。 他に意見は無いか。環境経済部農政課の春田委員はいかがか。農政課は食料とイメージするが、防災に対しての意見はあるか。
春田委員	・日中に災害があった場合、高齢者や子どもだけが地域に残ること

座長	が考えられる。炊き出し1つを取ってみても、得意、不得意があると思う。自分に何が出来るか、常に考える意識改革が必要である。 ・西日本豪雨では火を使わなくても食べられる物が品薄だというのが、食べ物すぐに調理出来ない状態だと、どうなるだろうと思う。 行田市は利根川や荒川に挟まれているので、川の氾濫に対して恐怖感がある。災害に備えて、男女共同参画からの視点で情報共有出来たらと思う。
事務局	・現在、市役所職員も担当する避難所の現地確認を行っているところだが、担当する避難所は必ずしも職員の自宅の最寄りとは限らない。そのため、職員が避難所に行く前に地域の方々が先に避難することも考えられる。そのような場合は住民の方たちが自ら動くことになるので、自治会役員の方たちだけでなく、多くの市民の方たちにご参加いただくよう周知をお願いしたい。
西田委員	・防災セミナーの開催については、アンケートを取って内容を決めた方が良いのではないか。一方的に講演を行うのではなく、例えば一番の心配は何かといったような、いろいろなアンケートを取ることで市民の声を活かした価値のあるものになると思う。 話は変わるが、先日、加須市と羽生市の商工会が開催した起業セミナーに参加した。参加した方から、起業するためにパソコンを勉強したいので、パソコン講座をやって欲しいと意見が上がっていた。 そのように、必要としているのが何かを聞き、就職等、一歩前に出るためのいろいろな魅力あるセミナーを企画していくことが良いと思う。今回のパソコン講座の参加者に対して、次回はどのような内容のものを勉強したいかといった意見を聞くなど、次に繋げるような方策が必要である。

	また、防災の 500 名と比較すると他の事業は余りにも小さいと感じる。開催場所が広いのに定員 30 人や 18 人というのはなぜなのか、どのような告知をしたいのかとってしまう。 昨年度と比べて今年度は意見を反映し、とても魅力的な内容だと思うが、対象者が市内在住、在学、就職活動を考えている方、というのは全部が対象でとても曖昧である。人数は少なくても良いと思うので、対象を絞ってチラシを配布した方が実りのあるものになると思う。
中村委員	・西田委員の意見も分かるが、私たち一般主婦からすると対象が市内在住であれば参加出来ると思える。昨年度のように企業の管理者や人事担当者となると、女性部に参加要請があっても私たちが参加するのはおかしいのではとってしまう。一般主婦の立場からすると市内在住はハードルが低いので参加しやすい。
西田委員	・資料には、やり方や詳細が書かれていない。参加者を闇雲に集めるのではなく、参加者が本当に勉強したいものを的確に周知することが大切である。そうでなければ良い企画も伝わらないということを上げた。
座長	・やはり、こんなに良い企画を持っているのに、それが伝わらないというのはネックになってしまう。これは市報には載らないのか。
事務局	・今までも市報、情報誌 VIVA、県と共催の事業については県のホームページ等にも掲載し、今後も活用して周知していくつもりである。 対象がどの年代の方もだと幅が広すぎてしまうので、本当は対象を絞って焦点を当てて行う方が結果としては良いと思う。講師の方々も対象を絞るほうが効果的だと言っている。 先日、研修に行ってきたが、やはり対象はきちんと考えて行った

座長	方が良いと指導を受けてきた。例えば、申し込み方法1つを取っても年代によって異なるということであった。20代や30代は携帯のQRコードを利用し、50代はFAXを使う。60代以上は電話を利用し申し込むといったように、その年代に沿った申し込みが必要だということである。 昨年、参加したいが参加出来ないというご意見も頂戴しているので、事務局としては皆さんに参加していただけるよう対象を広げて周知することになっている。企画段階ではきちんと対象を定めるようにはするつもりだが、周知については市報等あらゆるところで行いたいと考えている。 ・対象を絞って行うことで達成感はあるが、難しいと思う。人数を集めることも大変だが、幅広くすると講師も大変なのでそこが難しいところである。
岡田委員	・私も対象を絞らないことに賛成である。 自己防衛セミナーとビューティー&キャリアアップセミナーについてだが、両方ともジェンダーのような、男性は強く、女性は美しくをイメージするものは、VIVAの事業としてはいかなものかと感じた。 自己防衛セミナーは女性の方が自分の身を守らなければならない場合が多いと思うので、男性限定にせず、女性が参加したくなるような周知をする方が良いのではないかと思った。 また、ビューティー&キャリアアップセミナーも身だしなみは女性だけがするものではないので、身だしなみやコーディネートで印象が上がる、ビジネスチャンスを引き寄せるといった男性でも参加したいと思うようなものを企画していただけると良いと思う。女性のメイクアップセミナーはどこでもやっていて、あえてVIVAでやる必要があるのかと思う。男性と女性のバランスが逆転するような企画をするとより良いものになるのではないかと感じた。

事務局	意識啓発講座で親子料理講座が実施されたということだが、参加状況はどうだったのか伺いたい。 ・親子合わせて 32 名の参加があった。
岡田委員	・その中で目的が男女共同参画の考え方について男女共同参画の意識状況を図るということで、具体的にどのように行ったのか。
事務局	・昨年度まではカレーなどの料理をしたが、今年度は和菓子の練り切りを作った。小学生が対象で小学校 1 年生から 6 年生まで幅広く申し込みいただき、子ども 17 名の中には男子児童もいた。保護者では父の参加も見られた。 親子でもコミュニケーション不足になったりするため、母と子、または父と子で料理を通してコミュニケーションを図り、男女共同参画意識についてのアンケートを取った。ほとんどの児童が男女共同参画という言葉が知らなかったが、男性も女性も料理をして良いということは分かったようだ。来年度も開催して欲しいといった声や、和菓子はなかなか作る機会がないので、体験しながら日本の文化や技術が学べて良かったという感想を頂いた。来年度以降も内容を変えて継続できればと思っている。
岡田委員	・意識啓発講座はとても楽しそうで参加率が良いと思うが、今回のアンケートで男女共同参画を知っているかということに触れるようになったのか。 出来れば、講座の中で子どもたちに分かりやすく男女共同参画は何かを伝えるよう取り込んでいけると良いと思う。
事務局	・講師からも親子のコミュニケーションが大事ということや、講師 2 人も男性であり、ママだけでなくパパも料理を作るといったことを講座の所々で話していた。

岡田委員	・ただの体験講座にならないよう、目的をしっかりと伝えられるようにして欲しい。フラワーアレンジメント講座や男性料理教室も同じように男女共同参画を啓発して欲しい。 男性料理教室の参加率はどうか。
事務局	・例年、男性料理教室を開催し、参加者は10名前後で定員を満たせず参加率は悪かった。しかし、昨年度は男の料理塾と名を改め、自分で魚を捌いていただいた。魚を捌ける男になろうということで周知したところ、申し込みが多く、キャンセル待ちが相次いだ。鯖と鰯を自分で捌き、鯖は煮付け、鰯は刺身となめろう茶漬けを作った。家庭では、なかなか魚を丸一匹捌くことは無いようで、女性でも上手に捌ける方は少ないのではないかと思う。参加者は魚を捌けたと自信を持って帰られた。 実施した翌日、参加者の方が手紙を持って来館された。過去にいろいろな料理教室に参加したが、こんなに素晴らしい料理教室は初めてで大変満足したとのことだった。また、奥様が煮付けを食べたときの驚いた様子や家庭でも男性は必要だと言われたことがとても嬉しく、初めて妻に認めてもらえた気がしたとおっしゃっていた。 また、参加者の名札についてアドバイスをいただいた。事務局としても出来れば参加者に名札を付けていただいて、同じテーブルになった方たちと積極的にコミュニケーションを図って欲しいと考えていたが、個人情報事務局側から明らかにしてしまうことを懸念し、用意をしなかった。 そこで、テープに名前やニックネーム等、知らせてよい範囲を自分で書いて服に貼れば良いのではとアドバイスをいただいたので、早速、テーブルごとに区別できるように色の違うテープを準備した。 また、男の料理塾の受講者に講座のアシスタントをしてもらってはいかがかとのアドバイスもいただいた。経験者が各テーブルを担当し、使用する物が何処にあるのか、また、講師の指導中に片

	付けや準備をすることによって、もっとスムーズに出来るのではないかとのこと、事務局として大変参考になった。 参加者からは、次回もやって欲しい、是非参加したいとの要望が多く、家庭でも男性の立場が凄く良かったとのことなので、今後でも企画していく予定である。
岡田委員	・素晴らしいと思う。参加率が良いのであれば、男性が家事をすることのメリット等の好事例を紹介し、それをきっかけに男性が家事に参加するよう勢いづけていただけると良いと思う。
事務局	・今年度は男性同士のコミュニケーション作りができ、次に繋げられるよう、講習後に30分位を目安に時間を確保して講座を実施出来ればと考えている。
座長	・他に意見等あるか。埼玉県男女共同参画課の本田委員はいかがか。
本田委員	・おそらく行田市の意向としては、男女共同参画推進センターの仕事の役割として女性活躍推進という視点があるので、今までご家庭にいた方が社会に出て仕事をするという後押しをしていくのが大きな役割になっていると思う。ビューティー&キャリアアップセミナーは就職活動を始めようかと考えている方に対して企画したと思うので、そのような方々の背中を押してあげるためのセミナーなのかと認識した。就職活動をするにあたって、少しでも自分自身に自信が持てるようにと、一つの力となって就職活動に臨むための準備セミナーと認識したところである。
座長	・就職活動を考えている方を対象にしているので、今の意見は最もだと思う。
事務局	・就職支援セミナーとパソコン講座、ビューティー&キャリアアップセミナーは3回の連続講座にするか、開催する順番をどうしよ

	うか悩み、県に相談して検討した結果、単発講座にした。就職はさまざまな年代の方が対象だと思うので、どの年代の方でも働けるよう、また、自信がなく一步踏み出せない方に自信をもって就職活動に臨めるよう支援できればと思い企画した。 ビューティー&キャリアアップ講座の目的は、本田委員のご意見のとおりである。内容はメイクアップではなくスキンケアで、きちんとスキンケアをしていないと綺麗なメイクは出来ないということからスキンケアの基本を学び、就職に繋げるための身だしなみや心構えも盛り込んだ。女性のみが対象ではなく、男性も身だしなみは必要なことなので、是非、参加していただきたいと考えている。
座長	・良く考えてこの講座が企画されたのだと思った。やはり、これから就職を考えている方には、そのようなことが不可欠なので、講座に参加していただくと変わっていくのではないかと思った。
本田委員	・県の男女共同参画として防災について申し上げたい。 実は、県では女性の視点を踏まえた防災に力を入れるようになり、昨年度に冊子を作った。今まで、自治会等で防災に関わる方は男性が中心だった。避難所は女性も男性も半々いるのが前提であるにもかかわらず、女性が運営に携わることが少なくなってしまっていて、女性の方たちが厳しい状況に置かれているのが明らかになりつつある。そのような現状を踏まえて、どのように変えられるのかということを冊子を作って配布し、自治会や女性の各地域のリーダーの方に目を通していただくことで周知を図っているところである。 今回は災害時のトイレ問題と対策ということなので、今後は女性の視点を踏まえた防災対策として、地域の防災に女性が携わっていけるような仕組みづくりを行っていただけると良いと思う。
茂木委員	・本田委員のご意見のとおり、女性の視点を踏まえた災害対策はと

事務局	ても重要だと思う。出来ればトイレ問題と対策だけではなく、一緒に出来れば良いと思う。 講師を日本トイレ研究所に依頼した経緯を教えて欲しい。 ・日本トイレ研究所が候補に挙がっているというだけで、まだ決定していない。当センターとして日本トイレ研究所はいかがかと防災安全課に提案している。 昨年度の越谷市の事業報告書を拝見したところ、災害対策セミナーで日本トイレ研究所の方が講師を行っていた。担当者に問い合わせたところ、とても反響があり、市町村等の自治体からの問い合わせが多かったとのことである。身近なテーマで、防災について入りやすかったのではないかとアドバイスをいただいた。
茂木委員	・了解した。資料の内容について、もう少し詳細があれば良かったと思う。
岡田委員	・いろいろ盛り込むことは良いと思うが、幅広くやりすぎて内容が薄くなってしまう可能性も考えられる。今回、トイレ問題をやるのであれば、そのほかに気をつけることなどを冊子や資料にして、講演では伝えられなかったことを何かあった時には見ていただくように配布し、今後の防災セミナーについての予定を周知するのも一つの方法だと思う。
中村委員	・私としてはトイレだけで良いと思う。実は、女性部も日本トイレ研究所に依頼しようかと考えていたところである。 昨年度、女性部と自治会長とでグループに分かれて話し合いをした。その中で、どのグループも女性が一番気になるのはトイレだった。もちろん防災について全般的な話はしていただくと思うが、やはり焦点を絞らないと今日は何を聞いたのか、何が自分の実になったのかが分からないと思う。トイレを主にして、後は参考にさせていただくような内容が良いと思う。

座長	先週も防災養成講座に参加した。女性に参加してもらうよう周知したようだったが１００人以上の参加で女性は一割しかいなかった。昨年からそのような状況下で、災害が起きたときの救助方法や現場での訓練など行っている。いろいろなことを一回だけやって全てを網羅するのは難しいと思うので、いろいろなところでやって出来るだけ参加してもらうのが一番だと思う。 ・考えれば考えるほど何を主体にしたらと思うが、トイレの重要性が一番気になる。今後、いつ災害が降りかかってくるのか分からないので、防災に関しては皆が協力していろいろなところに関わってけると良いと思った。 他に意見はよろしいか。 続いて議事の（３）その他について、事務局に説明を求める。
事務局	・その他として、追加資料のチラシと新聞記事の写しをご覧ください。 政府は働き方改革の国民運動を展開して、昨年、２０２０年東京オリンピックの開会式にあたる７月２４日を「テレワーク・デイ」と位置づけ、７月２３日から２７日を「テレワーク・デイズ」として全国一斉で、テレワークを実施している。新聞記事の写しでは、住友商事が「テレワーク」を導入していると紹介があったので参考にさせていただきたいと思う。 多様で柔軟な働き方の実現に寄与し、女性活躍推進の観点からも大きな意義を有していることも踏まえ、委員の皆さまにはテレワークの普及促進・活用、周知等にご協力いただくようお願いしたい。 最後に連絡事項がある。今年度も１２月１６日に男女共同参画フォーラムを開催する予定である。以前はみらいのホールで行ったが、昨年度はこの学習室で行った。今年度は商工センターで行う予定である。

座長	事業所表彰についてだが、前年度は株式会社ダイナムを表彰させていただいたが、今年度については、まだ選考中である。結果が出たらお伝えする。フォーラムについてご都合のつく方は、ご参加、ご協力をお願いします。
事務局	・フォーラムの時間帯や講師は決定したのか。
座長	・午後1時半から予定している。講師は春風亭鹿の子氏で男女共同参画の視点での落語をされている。演題は、「笑顔がもたらす私らしい働き方と生活」で、サブタイトルは「落語で伝えるワークライフバランス」である。
事務局	・とても良い題目で楽しみである。是非、都合をつけて参加をお願いしたい。 皆さんからご意見いただいたが、他にはよろしいか。 それでは、本日の議事は全て終了した。これをもって議長の任を解かせていただく。 ・大変長い時間に亘り、貴重なご意見をいただいた。事務局としても今後の事業に活かしていきたいと思っているので、今後ともご指導をお願いしたいと思う。 では、以上で閉会とする。